

神秘王国へ探究に行きませんか!?

生物圏科学研究科博士課程後期 環境計画科学専攻1学年 張 一 平



私は中国科学院昆明生態研究所から来ました張一平と申します。日本に来る前に当研究所で約八年間勤めていました。今年の四月に広島大学と中国科学院との学術交流協定が締結されました。この協定締結によって、両機関との友好関係が強くなり、極めて意義のある多様な学術協力ができることになり心から喜びとすところでありました。中国科学院所属の研究所は一二三個所あり、中国全国に配し、中国の自然科学、技術科学の基礎研究分野から応用分野までの研究を進めています。これらの学術交流ができるためには、充分な情報交換が必要だと思えますので、雲南省および中国科学院昆明生態研究所の概況を紹介させていただきます。

一山分四季、十里不同天

雲南省は中国の南西部に位置し、面積は約三八・三万km²で、日本とほぼ同じ、人口は約三五〇六万人である。山地面積は総面積の九四%を占め、河川も多いので、地形は非常に複雑である。北西部には高黎貢山、怒山、雲嶺などの山が並び、海拔が三〇〇〇m以上である。これらの山と山の間には怒江、瀾滄江、金沙江が流れている。中部には海拔が二〇〇〇m前後の高原面である。南部は海拔が一五〇〇mくらい、無量山、哀牢山など山脈があり、瀾滄江の下流や元江などの大きい川もある。

雲南省は低緯度、高原に位置し、季節風の影響が強い。風系、緯度、地形などの影響によって、気候は非常に複雑となっている。水平的に区分すると、熱帯気候、亜熱帯の山地季節風気候、温帯季節風気候と高原気候があり、垂直的に区分すると、寒帯、温帯、熱帯

がある。「一山分四季、十里不同天」と言う諺がある。つまり、同じ時期に、山麓は暑い天氣で、頂上はまだ雪があるということである。そのために植物、動物もかなり豊富である。

高等植物の種類では世界約二三万種のうち雲南省では一・八万種があり、中国高等植物種類の半分以上を占めている、その中に熱帯亜熱帯の高等植物は一万種以上がある。野生の稲、茶、山茶などの野生植物は遺伝研究について非常に役立つものがある。そのほか、野生動物の種類も多く、その中の三七種と四二種が国定一・二級保護動物で、中国の一・二級保護動物の三八%と四六%を占めている。昆虫類(一万種以上)と脊椎動物(一六三八種)は中国の昆虫類と脊椎動物の四〇%と五四・九%を占めている。地形環境の影響のために同一地域に異なる気候帯の動物が共存している現象はあちこちに見られる。雲南省は「植物王国」および「動物王国」として有名なほか、未知地域の「神秘王国」として世界中で注目されている。

植物、動物、気候、化学、微生物などの研究が進む昆明生態研究所

中国科学院の自然生態に関する研究所は現在二つしかない。北部の北京には「生態環境研究中心」と言われる研究所があり、南部には昆明生態研究所がある。後者は一九七八年に創設され、熱帯、亜熱帯の自然生態系についての研究を進めることを目的としている。

いま、植物、動物、気候、化学、微生物など専門分野の研究者が約九〇名所属して、森林生態研究室、実験生態研究室、応用生態研究室、実験分析室および二つの支所が設置されている。支所の一つは内陸熱帯地域の西双版纳にある。元中国科学院熱帯研究所の一部で、ゴムの木を高緯度に植林する実験基地および人工多層植物群落の実験研究として世界的に有名である。もう一つは雲南省南西部における、ほぼ南北方向の走向をもった哀牢山脈の北部地区の景東県にあり、そこに亜熱帯山地の生態研究定位置を設置し、一九八一年から気候、植物、動物、微生物、土壌などの分野にわたる総合研究を同時に始めている。ここは亜熱帯地区における垂直生態系についての垂直的特徴の解析を目的としている。

いま、昆明生態研究所の研究者は雲南省の独特な自然条件を利用して、いろいろな研究を進めている。また、アメリカ、ドイツ、スイス、日本など各国の研究者との共同研究、学術交流も行なわれ、国際交流が広がることを期待している。皆さんも一緒に神秘王国へ研究をしに行きませんか!?

ハオ
ニイ
您好
今日は!